

# 【公募型】 令和3年度 客員研究員 研究報告書

滋賀大学経済経営研究所

氏名	氏名（ふりがな）	所属学科・職名
	李 冠軍（り かんぐん）	学校法人山口学園・非常勤講師

期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日
調査・研究のテーマ	農家の生産行動と収量リスクに関する実証分析
研究成果の概要 (中間成果も可)	<p>中国では1996年に大豆輸入自由化を実施してから、大豆の輸入量は増加し始めた。2000年以降、WTO加盟や急速な経済成長を背景に、国内の大豆需要を大量の輸入大豆によって補っている。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行で農産物の供給網の混乱が続いていることや、大豆供給世界2位のアメリカとの緊張関係の長期化により、中国政府は食料安全保障に対する懸念が強くなりつつも、大豆の国内生産の振興を求めている。例えば、2020年に中国政府は大豆の自給率を向上させるため、2025年までに生産量を40%増やすという計画を挙げた。生産補助などの各種政策の適切な構築のために、大豆農家の直面するリスクに関する分析が不可欠である。</p> <p>そこで、本研究では大豆を対象とし、収量リスクが生産要素の投入構造に与えた影響を分析した。具体的には、大豆の生産量を、作付面積、経常財投入、資本投入、労働投入に応じて定まる関数（トランスログ型）としてモデル化し、10省の1997年～2018年のデータを用いて計測し、生産および変動係数の投入財に対する弾力性を算出した。その結果、経常財と労働投入の弾力性の絶対値が減少する傾向にあることが明らかとなった。これは、技術進歩により単位投入当たりの収量の変動が抑えられるようになってきたことを反映したものと推察できる。</p> <p>今後、大豆の収量リスクを考察するうえで、気温や降水量といった気象変数を生産関数に組み込み、研究を充実させたい。</p>
研究成果発表の計画 (学会報告及び学術誌への投稿)	内容をさらに充実させ、投稿する予定である。また、この研究を令和4年度の食農資源経済学会で報告を行う。